

なみ

9月号
vol. 103

巻頭特集

にしなりの小遺産

こいさん

「見つかっちゃったニャア」
西成公園（西成区津守1丁目13）にて撮影

にしなりの小遺産 こいさん

にしなりのまちの遺産を発掘していきます。
歴史や地域が育てたのは建築物や遺跡などだけではありません。人も大切な遺産なのです。わたしたちはそれを小遺産（こいさん）と呼び、まちの小遺産を発掘しつづけます。

こいさんプロジェクト・若松司／西田吉志／佐々木敏明

こいさん ③ 本村 スズエさん

本村さんは1942（昭和17）年山口県小野田市に生まれる。結婚を機に西成での生活が始まる。西成に来て間もなくして解放運動に出会い、以降50年、創生期の文化温泉の活動をはじめ様々な運動に携わってきた。現在は娘さんと共にお店の経営をするため、岸和田市で生活している。

大阪にきて夫と、 西成では友と出会う

本村さんが初めて来阪したのは中学校を卒業して間もなく、1年だけという条件で故郷の友達が大阪で経営する喫茶店のお手伝いとして来た。その喫茶店の常連客だったのがご主人の故本村信一さんだった。大阪では親切にしてくれ、山口県に帰郷する際には大阪駅まで車で送ってくれたそうである。山口県に帰ってほどなく、父親の転勤で大阪の河内長野市に転居することになった。そんな時、神戸三宮駅の車内で偶然信一さんと再会する。そこから交際を経て、1963（昭和38）年本村さんが20歳の時に結婚。西成での新たな生活がスタートした。

西成に来て間もなく、地区協議会の吉岡弥市さんから「旧文化温泉（現アイビスコート）の



十三間堀川の様子

売上など、経理をする人がいないからきてくれないか」と言われ、仕事に就いた。当時は建替える前の温泉だったので、経理をする場所がなく、長橋地区協会の事務所（元人権文化センター）で仕事することになった。此上（このがみ）さんという方と2人で旧館の講堂に机を置いて仕事をしていた。

部」の下川さん、辻さん、小林さん、「生業資金（※）」を担当することになる橋本さん、「企業連」の故黒田さんなど、西成の解放運動を支えてきた女性たちであった。

みんなが輝いていた

新生活をスタートさせた本村さんの目の前に広がる西成のま

ちは次のような様子だった。バラックの家が立ち並び、ゴミが目立ち、大きなねずみをよく見た。道路も舗装されてなく、なにわ筋なんかは雨が降ると水たまりがすごかった。そして、何といっても脂や屠場の工場から出る匂いがすごかったという。それでもそれ以上にそこに住む人たちの印象が深く残っている。とにかく、やさしい人たちが多かった。他人でも困って





着付教室をしていた時の本村さん（左から2人目）

たあと、ご主人も仕
部で半年ほどすこし
本村さんが西成支
れないことだが…
ある。今では考えら
橋に向かったそうで
の注意を払って淀屋
乗るのが怖く、細心
金をもつて地下鉄に
ない事でもあり、大
る。大阪に来て間も
さんが運ぶのであ
る。大阪に来て間も
ない事でもあり、大
金をもつて地下鉄に
乗るのが怖く、細心
の注意を払って淀屋
橋に向かったそうで
ある。今では考えら
れないことだが…
本村さんが西成支
部で半年ほどすこし
たあと、ご主人も仕

いる人がいるとほっておくこと
ができない、そんな人ばかり
だった。当時「部落の完全解放」、
「差別に負けない子を育てる」
「生活環境をかえることで差別
をなくす」など、松田のおっちゃんを先頭にして、被差別への解放運動が盛んだった背景があった。女も男も共に輝いていた時

代で、あらゆる活動は、地域一丸
となつて参加していた印象だっ
たと本村さんは記憶をたどる。
本村さんが文化温泉の仕事
に就いたのは、1964（昭和
39）年2月のこと。文化温泉の
売上を手集計で計算していたの
で、毎日毎日大変だったという。
またその頃には生業資金制度で
は、毎月地域の班長
さんが返済金を集金
し、それを本村さん
が計算。大阪市役所
の市民局まで、本村
さんが運ぶのであ
る。大阪に来て間も
ない事でもあり、大
金をもつて地下鉄に
乗るのが怖く、細心
の注意を払って淀屋
橋に向かったそうで
ある。今では考えら
れないことだが…
本村さんが西成支
部で半年ほどすこし
たあと、ご主人も仕

つながりのまちを 継承すること

女性が様々な分野で力をつけ
て活躍することが差別解消につ
ながるといふ松田のおっちゃん
の教えのもと、当時は特に婦人
部の活動が盛んだった。編み物、
ミシン、生花、着付、料理、茶道、
手話教室を文化温泉の3階や長
橋市民館で毎日行っていた。
本村さんもそのほとんどを
習っていたという。特に着付は
教室をひらけるほどで、のちの
ち役にたつた。本村さんのよう
に、教室で習い資格を取得して
教室を経営できるまでになる
女性がたくさんいたが、西成の
解放運動で多くの人と出会い、
多くのことを学んでいくように
なった。

本村さんは「現在、自分たちの
体験、経験のない人たちが増え
てきているが、差別問題を他人
事としてとらえているのではな
いかと一抹の不安がある。再び
差別のある時代になればどうし
よう」と、私たちに真剣に話して
くれた。
※生業資金：西成地区協議会が窓口
となり、地域で生活する人が何か商
売をしたいけどお金が足りない、そ
んな時にひとり3万円、30回払いの
融資を受けることができた。保証人
も必要なしのうえ、半年間は無利息
という制度。

文責…西田



（写真上）設立当初の文化温泉 （写真下）現在の位置に移転改装した当時の文化温泉

みんながみんな

こどもたちを育むには、学校と家庭に加え地域の役割がとても大切です。ただ、学校がどんなことをしているのか知っている人は意外と少ないのでは？ということで、これから学校の様々な出来事や取り組みをお知らせしていきます！

3時間目：松之宮小学校



(写真左上) 全館バリアフリーの新校 (右上) 太鼓サークル (左下) ボランティアの方たちを朝会で紹介 (右下) 創立当時の校舎

来年は89周年、
長い歴史があるんやなあ

西成区北西部の教育現場・出来事にスポットライトを当てた「きーんこーんがーんこーん」。3回目は松之宮小学校です。長橋小学校の100年、北津守小学校の90年に続くこと松之宮小学校は創立88年目を迎えました。1927年4月1日に今宮第6尋常小学校として創立され、多くの学校同様、戦時中の1941年4月1日に松之宮国民学校に名称変更が行われ、終戦後の1947年4月1日に松之宮小学校へと三たび学校名称が変更され、今に至っています。また、2005年4月1日には全館バリアフリーの新校舎が建設されました。

「まっちゃん」の笑顔を見てみたい

そんな松之宮小学校では、朝食を食べていない・寝る時間が遅い児童の比率が大阪市平均よりも高いため「はやね・はやおき・あさごはん」を重点に置いた生活習慣改善の取り組みが行われています。そして生活習慣につ



地域・PTA・学校合同もちつき大会

いては毎月集約が行われ、毎月「まっチャレ」で改善がどれだけ進んだのか報告されています。「まっチャレ」では、こどもたちが関心を持てるように、先生たちが手づくりで作成したキャラクター「まっちゃん」が結果を報告します。ちなみに6月は、はやおき、あさごはんがダウンしており、「まっちゃん」の表情は悲しそうです。

地域に育てられたこどもが 地域を育てる

また、地域のさまざまな方々が学校を応援

しています。こどもたちの安全のため朝登校を見守る「見守り隊」、こどもたちの読書活動のために協力してくださる「図書館ボランティア」、その他にも学校のいろいろな行事や取り組みに、たくさんの方々が協力や参加をしておられます。3学期には地域やPTA・学校が力を合わせて土曜授業で、「もちつき大会」を行っています。また、食肉・皮革文化については、地域の商店・職人の方が強力な協力をされています。その他にも地域のたくさんの方々の支援で、こどもたちの理解も深まります。このような地域ぐるみの取り組みのなかで育ったこ

どもたちは、きつと将来
地域を支えてくれること
になると思います。

人と地域との絆が 太くなってきました

最後に豆情報を1つ。松之宮小学校生涯学習ルーム和太鼓教室の太鼓サークル「絆」は市民交流センターに

のいろいろなイベントで発表されています。サークルの一員として頑張っておられる方は、西成区北西部子育て保護者会の代表役員をされていました。また、太鼓教室の講師は大学生の方ですが梅南中学校の卒業生で、市民交流センターに仕立てられています。何かの縁で知り合い、違う縁でまたつながり、更に深い縁になっていきます。人と人とのつながりが深まっていくのが地域活動の醍醐味だと感じました。

レポート：寺嶋公典

〔田岡秀朋〕波乱万丈な選手と監督が率いる大阪信愛学園野球部。雑草軍団と呼ばれ、初出場した甲子園では2回戦で負けた。4番とも真向勝負。正々堂々の戦いぶりは、気持ちがよかった。

〔沖田一志〕熊野古道の近露に行ってきました。日置川がとてもキレイで川遊びを満喫。温泉にこだわって紀伊半島を縦断したので、長くて険しい道のりでした。

〔寺嶋公典〕高校野球100年が大きく取り上げられましたが、長橋小学校も100年。先生と生徒、親、地域にも筋書きのないドラマはたくさんあったんやろうなとしみじみ感じました。

バリアフリーは校舎だけちゃうで。松之宮小学校

ナイスな仲間たち

「なび」をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

VOL.18 フリースペース マナビバ!



スタッフ 菊池 (左) と学生ボランティアの 佐伯 (右)



タブレットもあります。学習したり、絵を描いたり、好きなことに使えます。



たこやきパーティーやクリスマス会、七夕などのイベントも！カードゲームやボードゲームもあるよ！

フリースペース マナビバ!

- 場所・日時
市民交流センターにしなり 210号室
毎週火曜・木曜 (祝日の場合は休み) 10:00 ~ 16:00
- お問い合わせ
TEL: 06-6568-1840 (平日 10:00 ~ 18:00)
Mail: info2@human-ref.jp 担当: 菊池、園田
URL: <http://kokokara.hotcom-cafe.com/>

こんにちは! 「フリースペース マナビバ!」です
「マナビバ!」は、「いつでもおいで、誰でもおいで。」がモットーの「みんなの居場所」です。ヒューマンライツ教育財団とAダツシユワーク創造館、西成区の中学校・高校が協働で運営し、高校再入学や高卒認定試験や就職など、若者の再チャレンジや進路探しを応援しています。
「マナビバ!」では困りごと相談、個別学習、しごと探し、パソコン体験などさまざまなメ

ニューもあります。まずは遊びに来てください。ゲームをしたり本を読んだり自由に過ごしましょう。これからは季節のイベントもたくさん予定しています。利用料は無料で、お兄さん、お姉さんスタッフがみなさんを待っています。
読者のみなさん。近くに気になる若者がいれば、ぜひ「マナビバ!があるよ」とお声がけください。
文責: 園田 瞳

い湯かげん

一強多弱から芽生えた直接民主主義

「政治の世界の一寸先は闇」なんて言われるが、一強多弱で万全に見えた安倍内閣の支持率が急降下、「危険水域」と言われる30%割れに近づいてきたのだから、政治は怖い。ある調査によると、女性票ですですに20%台らしい。

橋下さんは人に任さないが、安倍さんはどちらかというと組織プレーをする人、なのに肝心の身内からの足引っ張りが目立つ。「海外での軍事活動に核兵器を輸送できる」(中谷防衛相)、「法的安定性は関係ない」(磯崎首相補佐官)、「戦争へ行きたくないというのは超利己的」(武藤衆院議員)等々。岩手県知事選挙で

は、劣勢必至の推薦候補の立候補断念という異例の措置に出たが、これには驚いた。安倍論戦から逃げただけでなく、復興論戦を犠牲にしたことになる。陣頭指揮は谷垣幹事長なのか、菅官房長官なのかかわからないが、後で倍返し打撃を受けることになる大失敗だったと思う。安倍に懲りすぎの安倍さんを、野田聖子さんが「少子化対策も大事」と皮肉つたとも報道されている。SEALDsという学生団体のことを「デモに参加すれば就職できなくなる」とネットで発信した時代錯誤の自民党地方議員もいたらしい。

公明党のお家事情も大変だ。安

保法案への無批判的追隨に、さすがに創価学会内部から批判が噴出しているらしい。自民党も「嫌な感じ」だが、大阪都構想の住民投票での対応も然りで、公明党が自民党の尻にくっついて右往左往する様子は、ホント「嫌な感じ」だ。創価学会や公明党には、戦争については理屈じゃなく「嫌だ」という頑なさがあり、信仰を別にする人々からは、何かと頑ななところが好きになれないが、この戦争は嫌だという頑なさが見えなくなっていると思われてきた。何だか、昔々、「自社会政」なんてできたのは良いが、それで社会党が消えてしまった歴史を思い出す。土井たか子さんも、ダメなものはダメだった。

一強多弱に押されて、尻軽く安保法案を出した安倍さんだが、一強な分どうしても持って行き様が横柄になった。一強なんだから党内論戦を見れば良いのに、一強な分反対論を言にくいにくい雰囲気をつくってしまった。公明党も堅い組織な分、組織内民主主義をおろそかにしたし、失礼だが堅い分、東京派、関西派みたいな抗争もあるようだ。
変な話だが、「一強に救われた」。SEALDsのデモでは、ひきこもっていた若者も「声を出した」そうだ。選挙は間接的だから、これは「直接民主主義」というのだろうか、久しぶりの感覚だ。8月30日は国会前に10万人、全国でも100万人のデモが呼びかけられている。もちろん、この拙文の発行はその後になるが、『なび』もデモする予定だ。行くところないけど、行きたいと思ってる人を水先案内する「デモン」だ。

(株)ナイス代表取締役
富田一幸



人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからは「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[安田拓也] 自転車乗りの僕にはお盆は何とか雨に降られず、絶好のサイクリング日和でした。暑い時ほど、汗を流して「風を切る」サイクリングはやっぱり最高でした。次はどこいこ〜。



[若松司] 自分では経験しえないキラキラした世界を目の前に現してくれるのが、本当のエンタテインメントなのだと思います。9月は始まったばかりだけど、今から連休が楽しみです。



[西田吉志] まだまだ暑い日が続いていますね。今年の夏はセミが鳴きやむのが異常に早かった気がするのは僕だけかな? お盆は家族とプチ旅行にでかけました。みなさんはどんな夏を過ごしましたか?



[谷口円] 先日、ずっと見たかった彫刻家、船越桂さんの展示を見に行ってきました。言葉にできない内面や精神を形にしたような、静かに強く訴えかけてくる彫刻... たちまちです。





今月の花：アンズリウム

花言葉「煩惱」
「恋にもだえる心」
この花のように見えるハートの部分は、仏炎苞です。実際の小さな花は、尾のように突き出た部分にたくさん密生しています。

またひとり天国に逝ってしまいました。背の高い、体格のいい元気なひとでしたが、最後は、小さくなって、すごく悲しいです。血を吐いて、入院して、たった半年で亡くなりました。入院中の荷物もボンで預かっていました。ご冥福をお祈りします。
(なんばひとみ)

ピースのつばやま



『スキンシップ』

お風呂で母さんに突然シャワーをかけられ、ビックリ。

みかんの匂いにするシャンプーだったので、お腹がグーッと鳴ったよ。

温かいお湯で泡を流してくれたので、ブルブルって身震いしたら、お母さんがビショ濡れ。

濡れた身体を乾かしてくれて、私の身体はフワフワになったよ。

お母さんにいっぱい身体を触ってもらい、私の心と身体はハッピーになったワンワン!!



ピースの育ての母の赤井まゆみです。ピースがお喋りしたい事や思っている事を、これからもたくさん感じ取って、みなさんにお伝えしたいと思っています。

赤井まゆみ



枝葉末節

『橋下市長という大事件 2』



hidarimaki こと佐々木です。
今月の発句はいかが？
慢心が民意民意と蟬時雨

前号から続ける。以前、朝日や文春など橋下出自に関わる非難や予断をあおるマスコミの悪意が続いた。ハシモトをハシゲなどと蔑称し、ハシズムというレッテルを貼り付ける人々もいた。ヘイト行動を非難する側にもヘイトが存在する。先ずこれを書いておく。対立構図を作れば作るほど相互の憎悪は深くなる。橋下事件の悩ましさはこの一点にあった。
わたしは、この住民投票が何を残したのかがわからない。ただ個人的に疲弊したような気分を味わった。実際賛成票が反対票に僅差で敗れたけれど、実質は賛成票が勝ったのではないかと考えている。端的に言えば、住民投票とは橋下の人気投票であったと思う。橋下ひとりのパフォーマンスが、あれだけの賛成票を動員したのだ。これだけでも凄いことだ。反対

票の人たちの中には、いずれ大阪の改革が必要だと感じた人々も大勢いたと思う。しかし、あの悪意ある物言いや、ゲスで品がなくほら吹き権力的な態度が嫌いとか、これまでの権益を死守せんとする守旧派や、橋下憎しの左翼もたくさんいただろう。それでも反対者の共通点は、もう少し都構想の内容を知りたかったと考えたに違いない。多くは改革が必要だと思っていたのだ。大阪市の5区構想もわかりづらいし、二重行政とはいえず、そのシステムにどんなデメリットがあり、また二重行政を解消するメリットも定かではない。これから議論を続けなければならぬ。橋下は都構想に逸（はや）つていたのだらうが、焦りが強く、あと1年さまたまに意を尽くして辛抱すれば確実に賛成票が増えていたと思う。
わたしはこの住民投票で、反対派が一定の差で勝つと思っていて、しかし結果は想像以上に僅差だった。橋下は投票前から「負ければ市長をやめる」などと話していた。これだけのプロジェクトを推進するなら、大阪のためになお継続の歩を進めてみる必要があるのに、開票を前にあっさり辞任を言い、わたしにはこの違和感が残った。橋下市長はもうやりたい

放題し満ちたので、自分で幕引きしてもいいと決心していたのかもしれない。彼は、劇場型確信犯であり、一人全共闘であり、そして芸人素養で生きていた。政治をショー化し、社会の既得権益をさらし、憎悪と絶叫をエンターテインメントに、町衆を政治に近づけた。それだけでも並々ならぬ個性である。
一方反対派の連合群はなんとも冴えなかった。勝利したからといってなにも解決をする提案などなかった。ただ邪魔な男の影がいったんは幕間にいっただけの話で、これからは何がくるのかわからない。むしろ橋下に突きつけられた、不気味な都構想という大トゲが、そのまま刺さったままで、どんな形でこのトゲを抜くのか、あるいはトゲを調理しなおすのかを検討しなかなければならぬ。大きな課題を残されて後遺症に悩まされている。
政治家とは、わたしのよう町衆にとつては、実はあまりあてにはない存在であるという認識だが、とくに橋下に欠けていたものは対立を声高に発露するあまり、互いに幸福の共有を模索する気遣いが薄かったことだ。「民意」など大仰な言葉を使い、多数決原理を正義にして、数からも

れたものを除外する。「独裁こそが政治の志向」という不遜、傲岸を自らの言葉にし、恐喝や恫喝と紙一重のきわどい言質を弄したりする。一方で狂熱を演出し、他方で不支持も増やした。都構想というより、橋本の好感度をためすリトマス紙としての住民投票の結末が、大阪市全体を折半したように思う。
橋下の怖いところは、現在の国政へのすりよりだろう。例えば国と橋下市長の接点がいかに親和化すれば、ますます都合のよい政治が専横することだ。しかし、彼は暮らしの問題点について、従来の政治家が伝えてこなかったことを知らしめた人で、市長をやめてもただで起きないだろう。国政という大きなより、大阪というローカルを共和制の牙城にして、再度大阪を楽しむまいににしてほしいし、政治の粋（いき）を示せと希望している。いい悪いも含めて、一人の男の存在に大阪は賑やかになりかけていたし、緊張もした。このまま退出するには惜しい人だと思う。
最後になりましたが、永きにわたる拙文のご愛読を感謝いたします。今回でわたしの持場をひとまず終了いたします。ありがとうございました。

hidarimaki

西成カレンダー

「秋に向けてカウントダウン！」編

市民交流センターにしなり 秋講座のご案内

～基礎を学びインターネットの活用法が学べる!!～

パソコン教室（基礎・ネット）

1期目：（基礎）9月8日・15日・29日
（ネット）10月6日・13日・20日
2期目：（基礎）11月10日・17日・24日
（ネット）12月1日・8日・15日
※1期目と2期目の内容は同じです。

日 時：火曜日 午後1時30分～3時
回 数：それぞれ3回
講 師：池本 瑞希（パソコンインストラクター）
対 象：どなたでも
参加費：6500円（講師謝礼金・教材費等）
定 員：各10名（先着順）
持ち物：筆記用具

～マッサージからストレッチなど

手軽な健康術が学べます!～ 健康教室

日 時：10月2日（金）～11月6日（金）
毎週金曜日 全6回
午後7時～8時30分
講 師：吉岡 義広
（NSCA パーソナルトレーナー）
対 象：どなたでも
参加費：4500円
（講師謝礼金・教材費・テーピング代等）
定 員：15名（先着順）
服 装：動きやすい服装

【講座のお申込みは下記まで】

市民交流センターにしなり ☎06-6561-0007

素材・味にこだわる

芦原橋アップ・マーケット

芦原駅近くで開かれる月に1度のマーケット。お店とお客さんとの交流を図り、それぞれが質を高め合い地域も再生される。ここにしかない、ここでしか買えない、そんなこだわりのマーケットにぜひ、みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか？

開催日：毎月 第3日曜日
10：30～16：00（通常）
開催地：大阪市浪速区浪速東1丁目7番
アクセス：JR 環状線芦原橋駅徒歩2分
南海高野線（汐見橋線）芦原町駅徒歩5分
※9月20日（日）はナイトマーケット。
16：00～21：00です。お間違えなく。



あとがき

「なび」9月号で新たな編集体制による3回目の発行となりました。以前から編集に携わっているかのような感じがします。編集会議の時は毎回喧々諤々の喧騒の世界にいますが、それぞれの担当のところはきっちりと“おさめる”などたいしたもんだと感心しています。この熱気を12月オープン予定の西成隣保館の広報活動に生かしていきたいと考えています。（飯島）

なび9月号(vol.103)

発行日：2015年9月1日(創刊日：2007年1月1日)

発行：株式会社ナイス

発行人：代表取締役 富田一幸

印刷：有限会社前山企画

住所：大阪市西成区長橋3-6-33 電話：06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp

url: http://www.nice.ne.jp/

編集長：寺嶋公典

編集：飯島照喜、沖田一志、佐々木敏明、田岡秀朋、西田吉志、

安田拓也、若松司（あいいうえお順）

イラスト：hidarimaki デザイン：谷口円